

「地図豆」の地図を広げて街歩き

81-1 あじさいの本土寺と戸定邸へ（距離約3km）



本土寺のあじさいと戸定邸（右）

【道順】

JR 常磐線北小金駅北口集合→本土寺→大谷口歴史公園（小金城址）→流山鉄道小金城趾駅→同幸谷駅・JR 新松戸駅（→松戸駅→戸定邸→松戸駅）

【街歩き解説】

あじさいの本土寺と戸定邸へ（「北小金」駅北口徒歩10分）

本土寺は、もと源氏の名門平賀家の屋敷跡と伝えられ、1277年日蓮上人の弟子日朗を導師として招き開堂、日蓮上人より長谷山本土寺と寺号を授かったのが始まりとされており、池上の長栄山本門寺、鎌倉の長興山妙本寺とともに「朗門の三長三本」の本山と称される名刹とのこと。朗門」とは日蓮の弟子日朗の門流という意味であり、「三長三本」とは、上記3か寺の山号寺号にいずれも「長」「本」の字が含まれることによる。

現在では1万株のあじさい、5000株の花菖蒲でも有名で、「あじさい寺」とも呼ばれ参拝者に親しまれている。

大谷口歴史公園（小金城址）

戦国時代に、千葉氏の一族から出た高城氏が大谷口の小金城を築き、東葛飾地方一帯を支配していた。高城胤辰の代には、有名な「国府台の合戦」（1564年）で活躍するなど繁栄したが、1590年の豊臣秀吉の関東攻めによって小金城は開城した。

戸定が丘歴史公園へ（「松戸」駅東口徒歩10分）

最後の将軍徳川慶喜の弟にして最後の水戸藩主、徳川昭武（あきたけ）が明治になって住んだ邸宅で、明治期の和風上流建築として貴重であるとして国の重要文化財に指定されて

いる。併設する戸定歴史館では昭武が趣味とした当時の写真やゆかりの品々を展示している。公園には四季折々の花があり、梅や藤、紅葉が見事である。



名刹

①本土寺

松戸市平賀
古く水戸光園公奇進といわれる古松老杉の長い参道を抜け、仁王門をくぐると小路が広がり四季折々の顔で花木が迎えてくれます。特に紫陽花は有名で、別名「あじさい寺」とも呼ばれ参拝者に親しまれています。本土寺は、もと源氏の名門平賀家の屋敷あとと伝えられ、建治3年(1277)日蓮上人の弟子日朗を導師として招き、領内の地藏堂を移して法華道として開堂、日蓮上人により長谷山本土寺(ちょうこくさんほんどじ)と寺号を授かったのが始まりとされています。池上の長栄山本門寺、鎌倉の長興山妙本寺と共に閉門の三長三本の本山と称される名刹です。

徒歩約10分
(約0.8Km)

歴史

②大谷口歴史公園

松戸市大谷口 [小金城址]
中世城郭として東葛飾地域で最大の規模(約49ha)を誇った「高城氏」の居城。天文6年(1537)に完成し、人々から「開花城」ともいわれましたが、豊臣秀吉の関東攻めにより、天正18年(1590)落城。平成9年4月6日、自然と歴史にふれあうことのできる公園「大谷口歴史公園」として整備されました。なかでも文化財の調査に基づき復元された畷堀は、全国的にも極めて珍しい構造をしたものです。

+ * * * + オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu + * * * +